

2層構造による開発工程と比較して 約2倍の開発生産性を実現

全社レベルの事業実態を把握できる経営情報システムを Entera で実現

旭硝子株式会社

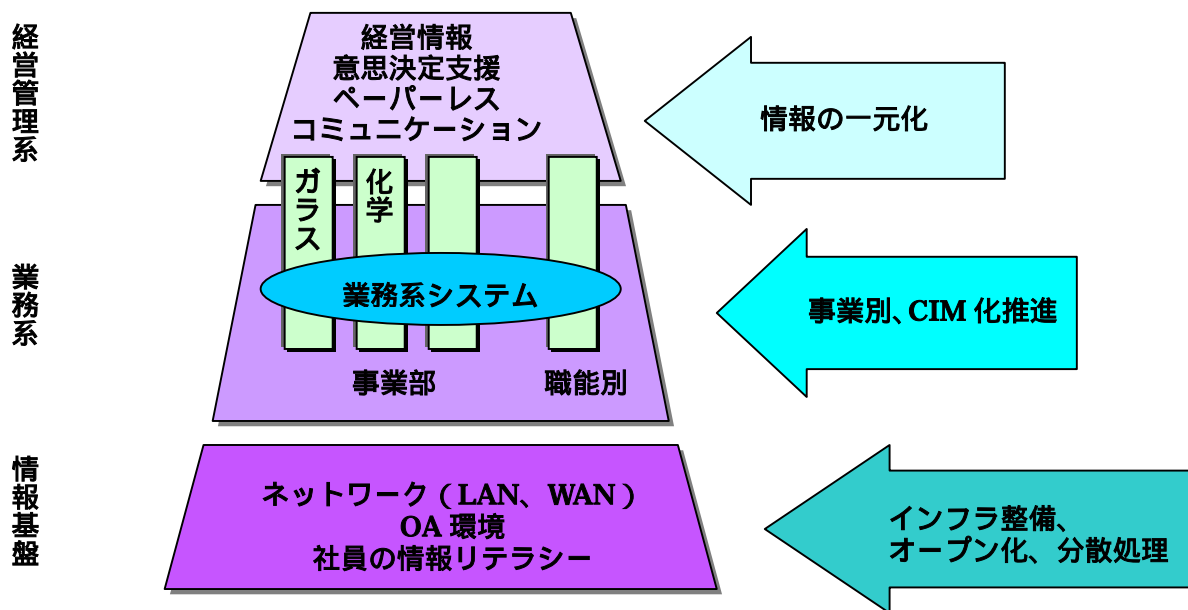
住所 東京都中央区

業種 硝子建材、化学品総合メーカー

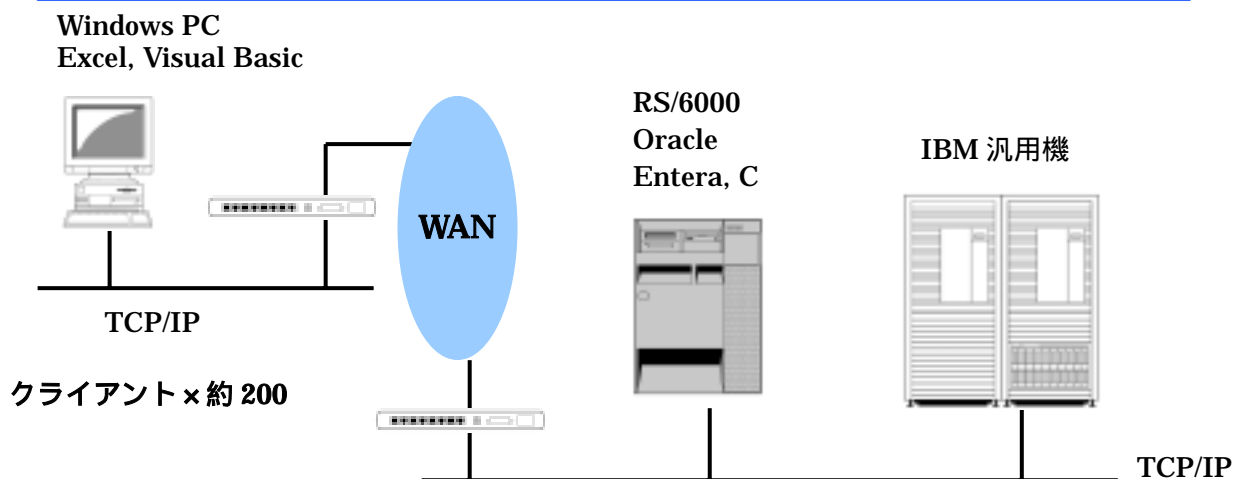
なぜ Entera か？

Entera はプロトタイピングを活用するスパイラルアプローチに適しており、3層の同時並行開発も容易で、また非常にオープンな環境に適應できることから採用した。

システム化構想



システム構成図



ユーザーコメント

旭硝子株式会社

情報システム部 滝沢正男氏

「経営者層向けシステムという特性から、ユーザーニーズの把握が非常に難しいという問題がありました。そこで、まず情報システム部門サイドでプロトタイプを作成し、ユーザーに提供してニーズを引き出す。このようなアプローチに適したツールとして Entera を採用したわけです。」

システム概要

経営情報システム（経営者向けの情報検索システム）

各事業部の売上や損益などの実績データを横断的に見ることができる経営情報提供用のサマリー・データベースを構築し、これをパソコンから随時検索可能としている。

導入経過

H.6年3月～経営情報提供システム構築の企画開始

H.6年5月～開発ツール検討開始

H.6年7月～ハード（RS/6000）、ソフト（OEC ツール、ORACLE）の導入決定 / 発注

H.6年8月～10月：売上情報提供システム構築

H.6年11月～紹介デモ実施 / システム改善

H.6年12月～情報提供システムの公開開始

以後：順次提供情報を追加し、売上・販売債権・在庫等6情報を公開

現在：Entera3.5Jへのバージョンアップを計画

導入効果

開発効率：従来のC/Sシステムに比べて開発効率が約2倍に

開発費用：従来のC/Sシステムの約1/2に。

開発期間：メインフレームシステムの約1/5に、従来のC/Sシステムの約1/3に。

今後の課題

提供データの拡張、対象ユーザーの拡大、セキュリティ機能の強化など、将来的には付加価値の伴った情報を提供する高レベルのシステムを提供したい。